

社会全体で子どもを守って



羽衣町地区

立川第三中学校二年

西川 結喜

みなさんは里親制度についてどのくらい知っていますか。

里親制度とは「何らかの事情により、家庭での養育が困難、または受けられなくなった子どもたちに、温かい愛情と正しい理解を持った家庭環境での養育を提供する制度」です。そして養育里親とは「親の病気、家出、離婚、そのほか色々な事情により、家庭で暮らせなくなった子どもたちを自分の家庭に迎え入れて養育する人」のことを言います。逆に預けられる子どものことを里子と呼びます。

私の家でも養育里親をやっているのですが、周りの人に里親のことを話すとき、多くの人が養育縁組をしたのだと勘違いをしていることに気がつきます。同時に「里親って大変そう。特別な経験のある人だけがなれるものだ」というイメージを持たれているのではないかと思います。今回、実際に私が体験したこと、考えたことを話します。皆さんが里親制度に少しでも興味を持ち、里子に向き合ってくれたら嬉しいです。

はじめに短期委託での体験についてです。短期委託とは、「一日から、一、二ヶ月くらいの短期間だけ自宅で里子を預かること」を言います。

我が家には中高生が来ることが多く、同世代の私は、はじめどう接しているのか分からず戸惑っています。下の兄弟達は緊張している里子さんに気軽に話しかけ、あつという間に仲良くなってしまいます。私が里子さんと話せるようになるのは、たいい食事の場が多く、学校生活や趣味の話から、徐々に仲良くなり、里子さんとの生活を楽しく

めるようになっていきます。里子さんから、我が家での生活が楽しかったといってもらえる時もあり、すごく嬉しかったです。

短期委託として預けられる里子の多くは、突然親と離れることになり、児童相談所という行政機関に保護されます。その後一時保護施設に預けられるのですが、今どこの施設もたくさん里子を抱えていて、すぐに子どもを受け入れられる状況ではないことがあります。そのような場合に、児童相談所から里親に短期委託の依頼がかかるのです。保護された里子は、今晩寝る場所もないような状態で里親の元へ預けられます。中には不安や淋しきで心に深い傷を負ってしまう子もいるでしょう。私は、里子が少しでも安心できる環境を、私たち里親家庭で提供していきたいと考えています。

次に長期委託での体験についてです。

長期委託とは里子が成人するまでの長期間で預かることを言います。我が家でも、現在二歳の男の子を二年前に預かっており、今ではすっかり我が家の一員となっています。しかし、彼が来て間もない頃は、母から離れず、私たちは全然なついてもえませんでした。そこからなついてもらうには、時間がかかりましたが、今では彼が家族にいる事が自然になり、一緒に遊んだり、ご飯やお風呂など、彼のお世話を私たちでもできるようになりました。家庭で育つということは里子の成長において大切な要素なのだそうです。私は、長期委託を受け入れられる里親家庭がもっと増えてほしいと思っています。

最後に、日本にはたくさん里子がおおり、中には親元に帰れず、寂しい思いをしている子や、施設などが一杯で保護先を転々とする子もいます。これは、皆さんにも関係のある問題です。彼ら、里子は社会的養護のもとにあり、里親でない人も含めた社会全体で育てていくべき子どもとして定められています。里親や里子についての正しい情報を得ておくだけでも、彼らのためになります。また、東京都の制度ではありませんが、寄付里親という取り組みもあるので、ぜひ一度調べてみてください。

私たちにできることで彼らを守り、支えていきましょう。